競　技　注　意　事　項

本大会は、２０２６年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会の申し合わせ事項によって行う。

１．ウォーミングアップ・練習について

ア．サブグラウンドは他団体が専用使用する予定である。したがって、ウォーミングアップや練習は、すべて競技場北側の全天候走路を使用することとする。競技場内での練習の時間帯は７：１５～８：４０とする。ただし、競技場や競技場北側の全天候走路での練習は今大会にエントリーしている選手のみとする。ハードル競技においては、１１：００～１１：４０に女子ハードル、１１：４０～１２：２０に男子ハードルを競技場北側の全天候走路に設置する。

イ．競技場周辺の通路や公園内のアスファルト部分でのウォーミングアップは禁止する。

ウ．競技場、全天候走路とも備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用してのスピード練習は禁止する。

エ．競技場のレーンの使用は、１・２レーンは周回のスピード練習（ジョグ等はレーンの外側で行うこと）、ホームストレートの３～４レーンは短距離練習、５～８レーンはハードル練習（５レーン：女新ハードル　６レーン：女ハードル　７レーン：男新ハードル　８レーン：男ハードル）とする。バトン練習については、バックストレートのみとする。

オ．投てき練習（メディシンボール等を含む）は、競技場の内外を問わず一切禁止する。

２．招集について

ア．競技者の招集場所は、競技場内の室内練習場に設ける。

イ．招集開始時刻はその競技の開始時刻を基準とし、下記のように定める。

トラック競技	１組～３組　２５分前に開始し、１５分前に終了する。 ４組～６組　１５分前に開始し、５分前に終了する。 ７組～９組　　５分前に開始し、５分後に終了する。
フィールド競技	４０分前に開始し３０分前に終了する。

ウ．招集の手順

競技者は招集完了時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、係員にアスリートビブスとシューズ、トラック競技のセパレートレーン種目は腰ナンバー標識の確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。

エ．携帯電話、スマートフォン、タブレット等の機器は招集所内、競技エリア内に持ち込まないこと。

３．競技について

ア．危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。

イ．アスリートビブスについて

① アスリートビブスは陸協登録ナンバーとし、男子は黒字、女子は赤字で明瞭に書き、必ず胸、背につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸部または背部だけでよい。

② 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。写真判定にともなう腰ナンバー標識は陸協登録ナンバーで作成する。100m、200m、400m、110mH、100mHおよびリレーの第４走者は、陸協登録ナンバーの腰ナンバー標識（男女とも黒字）を右腰後方につけること。

③ 800m、1500m、3000mについては、主催者が用意する別腰ナンバー標識を使用する。スタート前に大会役員から受け取り、フィニッシュ後に係に返却すること。

ウ．トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。決勝以降の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは、競技場外１００ｍスタート側とゴール側の掲示板に掲示する。

エ．決勝進出における＋αは１００分の１秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は１０００分の１秒まで読み取り、進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。

オ．リレー競走について

① リレー競走については、競技規則TR24.10を厳守すること。

② 同一チームの４名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。

③ 各走者は１カ所にかぎり粘着テープをマーカーとして使用できる。
（テープの大きさは50mm×400mm以内）

④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者の邪魔にならないようレーン内にとどまること。

⑤ リレーオーダー用紙について、オーダー用紙を学校受付時に受け取り、１組目の招集完了時刻１時間前までに競技者係に１部提出すること。

⑥ 共通リレーと１年生リレーは兼ねて出場することができない。

カ．「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある。同じ競技者が同じレースの中で２度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は１回で失格となる。

キ．競技規則TR17.3.3、TR17.3.4により、曲走路でレーンの左側の白線を踏んだ回数は、同一種目の次のラウンドに繰越し、累計２回で失格となる。なお、１回であっても他の競技者の進行を妨害したと判定されたり、実質的な利益を得たと判定されたりした場合は失格となる。

ク．競技規則TR5.2の改訂に伴い、ソールの厚さが規定以上のシューズでは競技に出場できない。
ケ．皇子山陸上競技場ではスパイクのニードルピンが使用禁止のため、付け替えなければ競技に出場できない。ただし、固定されているものは例外とする。
コ．すべてのラウンド（予選を含む）において競技を棄権する場合は、棄権届を競技者係に申し出て受け取り、招集開始時刻の30分前までに競技者係に提出すること。なお、**決勝を棄権した場合においても、その日その後の競技に出場することはできる。**
サ．**代理人による招集は認めない。ただし、同時に２種目を兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻までに、競技者係に用意した「多種目同時出場届」に記入し、招集所の競技者係に提出すること。最初の種目からシューズが変わる場合は、「多種目同時出場届」を提出する際に２種目目で使用するシューズの点検も受けること。**
シ．競技者に対する助力については、TR6.に準ずる。
ス．フィールド種目Ａ・Ｂピットは、
　　走高跳、砲丸投・・・Ａ　１００ｍゴール側、Ｂ　１００ｍスタート側とする。
セ．男子三段跳においては、踏切板から砂場までの距離を９ｍ００とする。
ソ．円盤投は男女ともにセレクションラインを設ける。
　　男子・・・１６ｍ００、女子・・・１４ｍ００

４．バーの上げ方

	種　　目	練　習	上　げ　方
男子	走　高　跳	1m35／1m50	1m40－1m45－1m50・・・・1m80－1m83　以上3cm
	棒　高　跳	任意の高さ	2m10－2m20－2m30－2m40－2m50－2m60　以上10cm
女子	走　高　跳	1m15／1m30	1m20－1m25－1m30－1m35－1m40－1m45　以上3cm
	棒　高　跳	任意の高さ	1m60－1m70－1m80－1m90－2m00－2m10　以上10cm

※走高跳の練習は上記のように二段階で実施するので、どちらかを選択すること。
※第１位が同成績の場合の順位決定は同成績の競技者全員が成功した次の高さで行い、その後のバーの上げ下げは走高跳は２cmとする。

５．表彰・学校対抗および得点について

ア.決勝において第３位までに入賞した競技者は､決勝結果の通告後すみやかに表彰席に集合のこと。
イ．学校対抗における団体表彰は男子総合・女子総合・男女総合とも第６位まで行う。
ウ．学校対抗得点は各種目１位８点、２位７点、・・・・、８位１点とする。

６．救護医療について

出場選手の競技中の疾病および傷害については､応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、大会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

７．開始式、表彰式について

開始式は８：５０から行う。令和７年度総合優勝校代表のみ整列して行う。また、閉会式は行わず、団体表彰のチームのみの表彰式を競技終了後準備が出来次第行う。

８．その他

ア．規制エリア内への入場できるのは競技者、補助員、競技役員、引率者とし、ＡＤカードによる入場制限を行う。ただし、スタンドへの入場規制は行わない。
イ．競技場での競技者の移動については、役員の指示に従い、競技場内の立ち入りは禁止とする。
ウ．競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと（競技規則TR6.3により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある）。
エ．テントは各校指定された場所に設置すること。
オ．**更衣室の利用については、更衣のみとする。短時間での利用を徹底すること。**
カ．助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、確実にはがして持ち帰ること。
キ．貴重品等の管理は各校で十分注意すること。
ク．写真や動画の撮影はスマートフォンのみとする。カメラやビデオカメラの撮影についてはTIC（正面玄関）にて受付をし、許可証を携行すること。以上を各学校から保護者へ周知すること。